

## 思いつくまま「よこはま」(1)

社団法人横浜港振興協会 永 田 隆

この度、御好意により、本誌の中で発展を遂げる横浜港を紹介して頂けることになりました。技術誌「マリシエンジニア」には、海の仕事に従事する者としての基地ともなるべき港の記事がご無沙汰しておりました。ご多忙中にも拘らず、いろいろな横浜港を題材に1年間程度の長期掲載に快くご了承を得、本誌を賑わして頂く新規コラムになりました。

横浜港振興協会専務理事の永田と申します。今回本誌への掲載の機会を得ましたことを心から感謝申し上げます。港を中心に「横浜」を少しでも知っていただけるよう肩の力を抜いて書き続けたいと思います。

三代続かないと「江戸っ子」と呼ばれない東京と違い、三日住めば「浜っこ」と呼ばれる横浜。開港期に諸外国や国内各地から人が集まり、誰でも受け入れる土地柄であったことが、そうなったと言われています。その後、東京のベッドタウンとして人口が増加し、間もなく370万都市になろうとしています。

「横浜」、「横濱」、「よこはま」、「ヨコハマ」と表記がそれぞれの都合?で変わります。「横浜」はイメージ先行型の都市だと私は思っています。どんな文字で表記されても雰囲気があるような気がしています。昔は、観光スポットといえば、「山下公園・マリンタワー」、「中華街」、「元町」、「港の見える丘公園・外人墓地」といったところが挙げられました。現在では、「みなとみらい地区」が代表的な観光スポットとなり、人の流れも大きく変わり、「山下公園・マリンタワー」のある山下町エリアは寂しい感じが否めません。

「みなとみらい地区」には、展示場、会議場、ホテルなどのコンベンション施設が充実

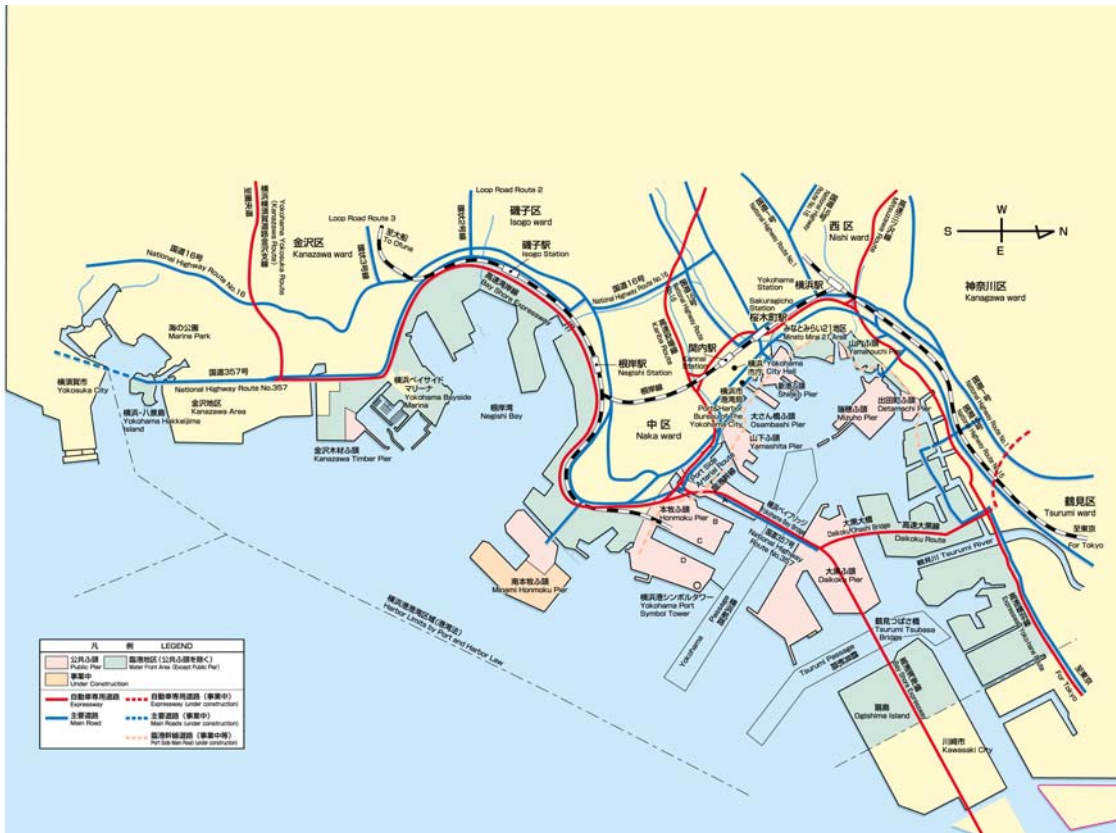
しており、集客施設としてランドマークタワーなどもあり、人が集まる要素は確かにあります。しかしながら、地元の私からするとそれ程の魅力は感じられません。ヨコハマの代表的な街づくりとして挙げられる同地区は、きれいな街づくりを標榜し、広告の制限が考えられないほど厳しくなっています。当然ネオンサインは一つもありません。ビルの企業名もあまり目立ちません。広告看板類もほとんど見かけません。露店なども見かけない。とにかく何もない。(笑)

ある時に大阪出身の方から、「この街はお客様にお金を落としてもらいたいと思っていない。遊歩道がありながら、自販機一つない。大阪なら、これでもかと店が並ぶのに」と笑われたことがあります。そこは気性の違いがありますので、全面的にうなずきはしませんが、もう少しドロドロした部分があってもいいのかなと、常々思っています。

「みなとみらい地区」は老朽化したふ頭と「横浜船渠(ドック)」の跡地を再開発して整備されたものです。1989年には「ヨコハマ博覧会」が開催され、1,300万人を超える人を集めました。あれから20年余を経て、多様な施設ができ、賑わいを見せています。近年、みなとの国際間競争が激しい中、先進港とし

てのアジア諸港からの視察がほとんどない状況下で、「みなとみらい地区」の再開発だけ

が、アジア諸港から興味を持たれていることは、なんとも情けない気持ちになります。



横浜港の全体図